

第16回「緑をつくる」施策を検討する部会 会議録	
日 時	令和5年3月29日(水) 14時00分～16時00分
開 催 場 所	市庁舎18階共用会議室さくら13
出 席 者	池邊部会長、石原委員、今関委員、高田委員
欠 席 者	国吉委員
開 催 形 態	公開(傍聴0人)
議 題	1 「緑をつくる」事業の評価・提案について 2 その他
議 事	<p>(事務局) 本日は、委員の皆様には、ご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から、「横浜みどりアップ計画市民推進会議 「第16回「緑をつくる」施策を検討する部会」を開催いたします。</p> <p>まず、本会議は、「横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱」第5条第2項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっておりますが、本日、委員定数5名のところ、4名のご出席をいただいておりますので、会が成立することを報告いたします。「同要綱」第8条により公開となっており、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。</p> <p>また、本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は、各委員の皆様事前に確認いただきたいと思っております。なお、会議録には、個々の発言者氏名を記載することとしておりますので、ご了承頂きたいと思っております。</p> <p>さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページ及び広報誌等への掲載をさせていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>次に、お手元の配布資料について、確認させていただきます。事前送付させていただきました、次第、資料1「横浜みどりアップ計画市民推進会議 2022年度報告書(案)」はお手元にありますでしょうか。資料1ですが、事前送付させていただいたものから一部修正がありましたので、差し替え部分を抜粋して配布させていただきます。</p> <p>また、本日は事業を所管する、みどりアップ推進課、道路局施設課が出席しております。</p> <p>事務局からは以上です。それでは、今後の議事進行につきましては、池邊部会長にお願い申し上げます。池邊部会長、よろしく申し上げます。</p> <p>(池邊部会長) 改めまして、皆さんとお会いできてうれしいです。世の中も花がいっぱい、早く咲き始めました。本日は、「緑をつくる施策」の評価について、皆様と一緒にやっていきたいと思っています。皆様方の積極的な議論を期待しています。</p> <p>それでは、みどりアップ計画の柱3の施策1と施策2の評価・提案についてです。</p>

施策1は、市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進です。施策2は、緑や花に親しむ取組の推進です。  
それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

(池邊部会長) まずは施策1について、意見や質問、事例に対するものでもいいです。実績はあくまで「予定」となっています。目標を上回っているものが非常に多くなっていて、非常に頑張っていることがよく分かります。それでは、順番にご意見をお願いします。

(石原委員) 目標に対してかなり進んでいる印象を受けました。P43の「公開性のあるみどり空間の育成支援」は、設定箇所10か所に対して4か年の実績が5か所です。ほかに比べると進んでいない印象を受けてしまいます。何か理由がありますか。

(事務局) 取組としては、申請をいただいたところに助成をしていきます。申請が少ないのは幾つか理由があると思いますが、これから事業者にもヒアリングしながら対応していこうと思います。横浜市での建築物緑化制度はかなり進んでいて、街の地区計画の中で緑化率を自ら定めている地区も多いです。基準でかなりの緑量を取らなければいけません、相対性をもって基準以上の緑化をしていくところもあります。事業上、そこまでの緑化面積を確保するのが難しい状況もあります。その辺りも丁寧にヒアリングしていくのかなというところがあります。  
例えば、開かれた工場の敷地内や大学などのキャンパスもあります。我々は色々なケースを想定しながらアプローチする必要があるので考えています。

(石原委員) 公開性のある緑空間では、既存の事業所の敷地内に緑を多くということと、新規に事業所が工場を建てる際に緑を多く設けるという両方可能なのですか。

(事務局) 両方想定しています。多くは、新規に建てる時に多めに緑化し、公開してもらいます。ただし、既に公開しているところのリニューアルは、みどりアップ計画の取組としてなかなかサポートしにくい部分もあります。丁寧にコミュニケーションを取りながら進めていきたいです。

(池邊部会長) 今の話はとても大事な点だと思います。税でやっている性格上、リニューアルにはなかなか出せません。逆に企業としては、「そこだったら欲しいけれど、新規につくるところは難しい」というのがあると思います。SDGsも進んでいるので、その辺りも含めて新しい形で、どこに本当に事業所のニーズがあるのか、支援の仕方をということです。  
屋上緑化なども、きれいにやっているところは助成金をもらわなくてもやっています。都内も横浜市も、助成金の実績はなかなか上がらないと思います。どこに本当に助成が必要

なのか少し地道に考えて、改善すべきところは改善が必要なのかなと思います。

(今関委員) 無理に税金を使わなければいけないわけではないと思います。自分たちでやろうとしているところに無理に押し込んでいくことはないのではないのでしょうか。

(池邊部会長) SDGsやCSRで自分たちでやらなければならない部分もあります。市から助成金をもらう必要がなかなかない部分もあります。

ただ、企業の工場緑化などは、工場の中を走る道路にプラスチックファデという事です。

例えば、今まで道路にはオオムラサキやアベリアなどの灌木が植わっていましたが、道路の植栽については、国の制度を変えて、これからはグランドカバープランツを植えていいというような感じにしました。

工場緑化してあるところの並木の足元にきれいな花が並んでいるような風景も、やろうと思えばできます。

これから国際園芸博覧会もありますが、横浜の場合、工場などは非常に近く、湾岸などにあります。トンボの活動や生態系の部分も長くやっています。逆に大きな工場ではなく、地元の商店街では、具体的にどういうものがあればできるのが一番の課題なのかなと思います。

(今関委員) 道路ではハマロードサポーターが活動しています。一つの場所で色々な団体が絡まってきてしまっています。私がやっている緑の推進団体も、自宅近くの空き地に花を植えようとしています。草ぼうぼうより花のほうがいいからです。場所がなければ、道路にプランターを並べようというのでやりました。「できたら並木の下に花を植えたい」と言うと、そこは土木事務所だから承諾をもらわないといけません。前は駄目でした。このごろはOKが出ました。色々混ざっているのですごくやりにくいです。

私も公園の樹木の下に植えようと言いましたが、40年前は駄目でした。金沢区では、20年前は花壇が10か所しかなかったのが、今は120か所に増えました。一生懸命、土木事務所で種まきして育てた苗を100株ずつ配っています。その公園の愛護会の人たちが水やりなどためにやってくれないと枯れてしまいます。言われなくてもやるところはやっています。同じようなことを色々な部署でやっていて絡まっている感じです。

(池邊部会長) 少しずつ交通整理したほうがいいですね。

(今関委員) 前は横浜市緑の協会から緑の推進団体に記念樹を配っていました。報告書を見たら、みどりアップ計画でも渡しているようです。やることが重なっているので、どちらか片方やめてもいいのではないかと思います。みどりの活動はだんだん「自分たちのところだけやればいい」という雰囲気になってきています。

(池邊部会長) みどり税からやっているものと、従来からのお金でやっているものと両方あって、税だけでやっているのではないと私は理解しています。従来どこの市でも使うべき維持管理費など、色々なものがあります。税として乗っているものと税を使っていないものがあります。

(事務局) 過年度より、横浜市緑の協会が緑の推進団体連絡協議会や各団体に向けて、団体の育成事業をしています。団体の活動を支えるために、横浜緑のまちづくり基金を活用してやっている事業が一つあります。昭和 60 年代からやっている事業です。平成 4 年から緑の推進団体がスタートし、花苗、球根に一部費用を使っています。一時は樹木配付も含めてやっていました。民有地緑化と団体育成の流れの中でスタートしました。

一方、みどりアップ計画は平成 21 年度からスタートしました。緑の量を増やすところが基本的な柱となり、色々な助成や樹木の配付制度がスタートしています。

「公開性のあるみどりの取組」は助成事業です。公開性があるってみどりを実感するため、今期みどりアップ計画から、どちらかというと質に着目した取組として重点を置いてやっています。例えば街路樹もその一つですが、緑の量や本数を増やせばいいものではありません。道路としての機能もあります。地域の人々がより安全で快適に緑を実感できる取組は何なのか、今後の取組や研究材料として我々はしっかりみていかなければいけないのかなと思います。

民有地緑化や公園、道路など、どうしてもそれぞれの管理法でそれぞれの施設管理者が管理をします。目的も法律も違います。うまく「全部やってください」とはいきません。緑の実感や質を高めていくところで話をして共有していくことについては進めていきたいと思っています。

(今関委員) 段々進んでいるようには思います。

(事務局) ハマロードサポーターの話がありました。ハマロードサポーターは道路の清掃などに特化して市民と協働しています。高木の下に草が生えていると、ごみが捨てられてしまいます。代わりに花を植えていこうというのは、取組として考え方が違います。街路樹もかなり狭いところに植わっていて高木化しているので、更新していかないと倒木の危険性があります。今より背の低い木になると緑の量が減るので、みどり税を入れられないことになっています。緑の量を増やすという点について、我々が道路の事業としてやっている、かなり時間と労力を要します。その辺りについて意見をもらえれば大変有り難いです。

(池邊部会長) 街路樹の計画更新にみどり税が使えないのはおかしな話です。私は多摩ニュータウンの街路樹を全て調べました。根上がりしてベビーカーが通れないようなところは全部新しくして、樹種も変えました。それをやることにより、今後も住

む人を増やすことができます。街のクオリティを上げることにつながります。並木の倒木対策よりは、まち全体の魅力や不動産価値を高めて、緑によってそこに住む人たちが出てくるという、非常に大事な場面です。今のところは並木の再生には使えないのですね。

(事務局) 税充当が妥当かどうかについて、この場で回答することは色々難しいところがあります。今回、実績の評価・提案をいただくなかでは、緑の量ではなく質に着目したみどりアップ計画の推進から、まずは評価してもらいたいです。基本的な公物管理は一般財源でやらなければならないというのがこれまでの税の考え方と言われていました。そこが質の話で乗り超えられるのかは次のステップです。我々としては、量ではなく質にも着目して計画を進めるべきだということを経験していただくと、色々な展開が想定できると思います。

(高田委員) リニューアルの問題が出てきています。まさに私たちが活動している街路も公開性のある緑の創出です。実際にレストランとかの緑もありました。一部は高い木もありました。連携した緑で、ここだけが外れてしまったら、街全体の魅力は欠損してしまいます。連携の重要性に対して助成が出て、まちづくりができたと思います。そのストーリーができていれば、このみどり税が十分有効に活用されるのではないかと考えています。取組の在り方に工夫をしてもらいたいです。1軒では駄目かもしれませんが、商工会議所の皆さんで3軒、4軒となれば連携もできて、大きな活動になり、コミュニティもできます。是非そういうお薦めの仕方をしてもらいたいです。計画があることを伝えてもらうのも重要だと思います。

(事務局) リニューアルや緑の質を高めるための支援は大変重要ですが、一方でそれぞれの資産や公物管理の中で、長らく手入れもせず放置したものを、「この機会だから」というのはどうかと思います。これまでも管理してきた、地域の計画の中でより魅力的にしようというのとはちょっと違うように思います。見定めるのは相当難しいなかで我々がどうするかというのも研究材料です。

(池邊部会長) 柱3の取組は、当初は並木がひどくて、「私たちは900円も払っているのに全然実感が無い。農地や樹林地は買っているのに」と、かなり言われた時期がありました。「街の魅力につながる」とか「地域に愛されている」とか、そういったことをすることにより、コミュニティの形成にもつながっていきます。まさにそういうものが緑の質の中に入っているという理解をしています。

横浜は、全国都市緑化よこはまフェア以降、ガーデンネットワークスなどを続けています。横浜は、バラによるまちのブランディングに成功したと、思っています。みんなが愛したり誇りに思うことはとても大事です。

今日は評価・提案の文言を精査しなければいけません。事

務局側が「街の魅力につながる」とか「地域に愛されている並木の更新」という言葉を使っているのは、私はとてもいいと思います。ただの「並木の更新」ではなく、「地域に愛されている並木の更新」が進んでいることを評価に書いてあります。それから、「ターゲットやニーズを分析して、もう少し周知や利用につなげていく工夫が必要だ」ということもうまく書いています。これに対して「こんなことは足りない」「この表現はおかしい」ということがあったら指摘してもらいたいです。文言としては、ここに出てきた事例などに対して、この評価・提案はきちんと記述されているかなと考えていますが、「緑の質」とは書いていませんが、散りばめられた言葉で、緑の質を上げるために市民税が使われていることが分かります。

(高田委員) 私たちのように深く関わっていない人がこれを読むときに、三番目の「制度のターゲットや」の「制度」が何か、もう少し説明が欲しいです。せっかく広げてきていることなのに、説得力がないです。あまり難しく書いてもどうかと思うので、シンプルに入れてほしいです。

(池邊部会長) そこについては一般の人の誤解がないようにしてください。その上で、「公開性のある緑空間の創出支援」が何を言っているのかイメージできるものがいいです。

先ほどの写真のようなものが出てくれば分かりますが、文章だけ読むと分かりにくいところがあります。三つ目のところで、そこは少し修正してもらおうということでもいいですね。前半の「公開性」のところと、後半の、想定件数が半数になっているのはなぜか、ターゲットやニーズを分析するとはどういうことなのか、イメージしやすい言葉をお願いします。文章は、「分析して効果的な広報を行い」とつながっています。制度のターゲットやニーズの分析は大事なことなので、それをやった上で「効果的な広報や周知につなげていく」ということです。

では、施策2に入ります。

赤枠の中に●が三つあります。「地域で新しいつながりが生まれている」という話と、「今後、国際園芸博覧会に向けてオープンガーデンなどが展開されることを期待している」こと、「今後の市政の中で、住みたい街や人口増も含め、子どもを育む空間として、横浜市の緑は非常にいいと皆さんに思ってもらいたい」ということです。

校庭や園庭も最初は大変でした。みんながすごく努力して、そういうことをやってくれる校長を探しました。そうしたら、今度は父兄から「野球をやるから、緑はいらない」と言われてしまったりしました。そういった中で、野球と共存しながら緑を創出し、野球の芝の育て方を教えてくれる人を派遣する制度が生まれてきました。非常に工夫しながら続けてもらっていると思います。そんなに緑化されていない学校と緑化されている学校とでは、緑化されている学校が選ばれるようになるといいのかなと思います。

	<p>(高田委員) 「地域緑のまちづくり」では、「緑の取組が着実に広がっている」と書いていますが、数などももう少し説明があったらいいです。せっかくいいことが広がっているので、数や特徴など、少し具体的に示すと説得力があると思います。色々と全部書くのも大変かと思いますが、1行でさらっと書かれるのもどうかと思います。</p> <p>(池邊部会長) 日本全国でも、3年間で独立することを前提にこれだけの額を出しているものはないです。でも、今では色々な地区で「自分のところも、自分のところも」というようにどんどん進んできました。それがひいてはコミュニティの結束力や地域力のアップにきちんとつながっていて、非常に大事な制度です。</p> <p>(高田委員) 結果だと色々広がりすぎてしまうかもしれません。地域のまちづくりを説明するなどしたらいいと思います。</p> <p>(事務局) 地域緑のまちづくりは、地域ならではの発想で取り組んでいるところが特徴だと思います。そういうことが更に各地域で広がっているところが大きいと思います。どういう地域活動かというところで加えて表現したいと思います。</p> <p>(高田委員) 読んだ人が「そんなことがあるのだったらやってみたい」というところにつながってくるといいのではないかと思います。</p> <p>(池邊部会長) そうですね。それが一番です。やっている地区はもうかなりあるのですが、横浜は広いので、まだまだやるべきところはあるのかなと思っています。やりたい人たちがどんどん手を挙げてくれることが一番大事です。地域緑のまちづくりが、それぞれの地域でユニークに展開していることを入れてください。ただ緑と花を植えて花壇づくりをやっているとか、今流行っているコミュニティガーデンよりはもう一つ上をねらっています。そこが分かる形で書いてもらえるといいです。</p> <p>(高田委員) 市の主導ではなく、地域の計画によって成し遂げられることがすごく重要です。継続にもつながっていると思います。</p> <p>(池邊部会長) 色々な計画があり、市の人と色々打合せをしながら最終的にいい形になっています。すごく大事な活動なので、是非入れてください。</p> <p>(高田委員) 「子どもを育む空間での緑の創出・育成」については、先ほど池邊部会長に詳しく説明していただいたので、すごく関心を持ち、感激しました。校庭に野球チームがいる写真を見て「あっ、そうか」ぐらいに思っていたのですが、学校にみどりを勧めても「いらぬ」と言われ、更に説明したという話でした。先ほど「野球の芝生の管理」と話されていたことについて「何のことかな」と思いました。</p>
--	--

(池邊部会長) ベイスターズの管理をしている人に聞きに行ったのです。

(高田委員) そこまでフォローして芝生ができたということなのですよ。それは素晴らしいなと思いました。大変評価します。

(池邊部会長) 最初なかなか進みませんでした。私たちみんなで、やっている学校の校長先生のところに、どうやっているのか見に行きました。ビオトープも賛否両論あります。「ビオトープなんかやると蚊が増える」という人もいます。これも生物多様性の部分でみどりアップ計画の一翼を担っています。そこに対してもみどり税でやっていることは非常に大事です。この上のコメントで、「生活科や総合学習の中で学んでもらう」とあります。今の子どもたちには、芝生で寝転がるのを嫌がる子どもたちがたくさんいます。ウッドデッキがないと駄目なのです。「しっとりしてしまうのが嫌だ」とか、いきなり草に触れると「虫がいそうで嫌だ」と言います。マンションで生まれ育つとそういう子がたくさんいます。そういう子どもたちが園庭に触れることにより、「芝生に転がるのは気持ちいい」と思います。それによってリフレッシュもされます。これもすごくいい写真です。前は緑の写真は人がいないものがすごく多かったのですが、最近、人がいる写真が増えてきました。こういうリラックスしたり、体操する空間が身近にあるのはすごくいいです。

(事務局) 小中学校、保育園、幼稚園の施設の状況として、必ずしも緑の管理の専門性を持った職員や技術者がいません。我々がずっと張り付くわけにはいかないので、その人たちに管理してもらえるようにしなければなりません。つくってからではなく、つくる段階からコミュニケーションを取りながらやっていくところで、日頃から苦勞して自問しています。コミュニケーションを取りながらスタートするところが大きいかなと思っています。緑を増やしていく中では、緑が好きな人や専門性のある人ばかりではありません。そういうところで増やす工夫、良好に維持管理できるサポートをどうしたらいいかというのが一つの事例だと思います。

(高田委員) 横浜市の特徴でもあると思います。税金がそういうふうに使われているのは本当に評価するところです。是非文章化して組み込んでもらえればと思います。

(池邊部会長) 東京 23 区などは、「校庭なんか舗装でいい」というところがすごく多いと思います。横浜に来たらこういうところです。生活科や総合学習などで、学べる空間があることはとても大事なことだと思います。

(高田委員) 計画段階から一緒にというところが非常に重要です。そこで理解されておらず、醸成されていない中でスタートしてしまうと、どうしても後の維持管理が大変だと思います。



(池邊部会長) では、P20の計画の柱3の総合的な部分に入ります。「市民が実感できるみどりや花をつくる」という柱です。保育園、幼稚園、小学校、「生きものとふれあう体験」という言葉が書いてあります。その次の段落では、まさに緑や花に親しむ取組によって、地域活動もより盛んになり、より結束力も深まる形になっていきます。緑や花への関心が全市的に広がっています。「緑あふれる魅力的なまちづくりに欠かせない市民力」と書いてあります。これはとても大事な言葉です。

横浜ではみどりや花が大切にされているし、そういう学校の園庭があるのだったら、自分の子どももやはりそういうところで育てたい人たちが来ます。自分たちも参加して携わり、維持管理をします。今では当たり前になってしまっているのですが、やはりすごく大変な努力の上にこういうものができてきています。国際園芸博覧会で海外の人たちが来たとき、このバラはお金だけ出して取って付けたようにつくったのではなく、日頃から市民たちが参加して、大事に、しかも、誇らしく思いながら地域で活動していることを見てもらえるようにしたいです。あるいは、そういうまちとして評価してもらおうこと、市民が今までどういうふうやってきたかを評価してもらおうことがすごく大事です。

「これまでの成果や課題を踏まえ、みどりや花の取組が今後も充実し、発展していくことが大事です」というところがもうひと工夫あるといいです。

(石原委員) そもそもこのみどりアップ計画は5年計画で、最終年の前の年です。「最終年に向けて、集大成で取り組んでいく」という決意表明を少し入れたらと思います。ここに入れるのがふさわしいかどうか分かりませんが。

(池邊部会長) 「5か年の目標に向けて足りないものはこういうところで」という部分ですね。

(事務局) これから皆様それぞれに委員コメントを依頼させていただきます。その中で「もう少し何かしてくれ」とか、思いを委員の言葉として伝えることができるかと思うので、添付してもらえればと思います。

(池邊部会長) 私たちが書く言葉もまさに、市民から見た評価にちゃんとつながるように、5か年の目標に対してすごく上回っているものもありますが、ニーズやターゲットの分析をしなければなりません。街路樹の更新に使えないとか、色々な宿題があります。皆さんのコメントの中で「頑張っている」という部分と、プラスアルファでもう少し足りない部分をやりながら、最終年度に向けてラストスパートをかけていくということです。

(今関委員) 緑は、できて終わりではないわけです。ずっと続きます。地域の住民が逆に手を出していかなくてははいけません。それがなかなか期待できない部分があります。若い人になると難しいです。

(池邊部会長) そうですね。一番難しいのは、緑や花は、コミュニティガーデンのような流行りでやっている部分はありますが、多くは高齢者や愛護会の人たちがやっています。

(事務局) 担い手の高齢化の話は、緑や花だけではありません。地域活動の全体的な課題です。むしろ花と緑の取組がそれを解決したり、若い人の参加のきっかけとなるように、我々は広がりを見せたいです。地域活動やコミュニティの形成にも花と緑は役立つ機能の一つなのだと思います。まさに地域緑のまちづくりの効果のようなところです。

(池邊部会長) 里山ガーデンで、里山を大事にしている人の中には、「里山に花壇を植えてしまった」と言う人も一方ではいるわけです。「里山はそういうところではない」と言います。でも、里山ガーデンをやったことによって若い人が「里山は知らなかったけれど、緑や花を見たくて行ったら、横浜にこんないいところがあった」と思ったことがすごく大事です。

約9割が市内産花苗です。これもとても大事なことです。まさに国際園芸博覧会に大きく打ち出せます。オランダとは違うかもしれませんが、横浜は自分たちのところで育てた苗でこれだけ演出ができます。素敵で素晴らしい話です。

これをやったとき、私はすごく勇気ある行動だなと思いました。これによって里山を初めて知った人が、若い人の中にはすごく多いのです。緑が好きな人たちは、20年ぐらい前から「里山」という言葉をみんな知っていました。若い人たちは「里山って何」という感じでした。自分たちの住んでいるマンションの近くしか知らない人たちは、横浜のいいところをまだまだ見ていません。でも、こういうことをやることにより、「横浜にはこんなに起伏があり、それが横浜の風景、景観としても、こういうふうに出展することによって美しく見えるのだ」とやっていることがすごくいいです。

計画の柱3に関する評価・提案は、今のような感じでいいでしょうか。皆さんが自分たちのコメントの中でも少し出していく工夫をすればと思います。

(高田委員) 園庭の話で、「そんなに芝生があるのだったら横浜に」という話がありました。全国的に、校庭や園庭が舗装になっている傾向が多いです。芝生というのは大事だと思いますが、どのぐらいの割合でしょうか。

(事務局) 校庭を全面芝生化している小学校はあまり多くありません。本当に片手で数える程度の学校です。全面芝生化すると学校行事や体育の授業に影響があるということで、一部を芝生化するといったことで、学校の現場とコミュニケーションを取りながらやっています。実際には全く緑がない環境ではなく、ビオトープやちょっと芝生があるといったことで、皆さんが管理できる状況でみどりにふれあえる環境を少しずつつくっていくというのが先ほどの数です。

	<p>(高田委員) 一部でもそういう場所があればと思います。</p> <p>(池邊部会長) すき間産業ではないですが、ビオトープや少しでも芝生広場をつくれればフレッシュする空間になります。やることによって引きこもりの子たちも減ってきたり、心身の健康につながってくるかなと思うので、すごく大事です。</p> <p>(高田委員) 知っている学校の教育者や経営者など、ときどきは色々な人に会います。そういう話も聞けば話もできるかなと思います。皆さんやり方が分からなくて、あきらめているところからのスタートだと思います。色々な手法で進めてくださいということです。</p> <p>(事務局) あきらめるところからのスタートではなく、相談してもらうことがスタートです。</p> <p>(池邊部会長) 相談の窓口があることがすごく大事です。しかも、そこに1個だけでなく、多様なメニューが用意されていることが、横浜市の事業のすごく強みかなと思います。</p> <p>(高田委員) そういうのも書いてもらえるといいです。</p> <p>(事務局) P43の担当コメントの一つ目の「街路樹は道路利用者の安全確保に加え」を入れました。その趣旨は、やはり街路樹は倒れたりすると市民の安全に関わるので、どうしても倒木対策で伐採します。「園芸博覧会をやるのに、みどり税で切っているのはとんでもない」という主張が多くあります。そこで、並木の再生に、「第一に市民の安全が大事なので、道路対策で必要なことをやる」という文を加えました。その辺りについてコメントをいただけたらと思います。「とんでもない」ということで、SNSでかなり拡散されてしまったりしました。今の時代背景もあります。</p> <p>(池邊部会長) それは大事なことです。「緑を絶対的に守る」とか、「絶対に切らない」という人の視点ではなく、「計画更新が必要だ」ということや、「安全性のためにはやはり時には切る」ということです。視線の問題もあります。公園も街路樹も人工的に植えたものです。何のために植えるかということです。木陰の形成といった機能のために植えているのです。100年のイチョウはすごく大事ですが、そうではないものもあります。千葉では、電柱と街路樹が風で一緒に倒れたこともありました。そういうこともあるので、やはり街路樹は選び方も大事だし、どのぐらいの大きさまでにするかです。私は最初から高さについても、この道路についてこの樹種を選んだからには、「6メートルまでにしておこう」とか「10メートルまでにしておこう」としています。高い樹木を剪定するためには高所作業車を使わなければなりません。そういうものを使うとどんどんお金がかかります。それが5年に1回になってしまったから「坊主になってしまった」ということです。そういう事情を知らないで「こんなひどい樹形になっていいのか」と言います。そういう写真だけ撮って「ひどい街路樹」</p>
--	---

	<p>ということで出てくるわけです。そういう意味で、街路樹はちゃんと見直すべきだと思います。私は銀座の街路樹についてやりました。あそこは8メートル以上にはしません。8メートルも厳しくて、今は6メートルです。植栽部分の土が1.2立方メートルしか入っていないからです。下がそれだけしかないの、上が大きくなったら転んでしまいます。転ばない最低限の線はそこだということで、最初からそんなに大きくしないという話を進めています。公園も、シンボルツリーは大きくしたらいいですが、その周りの木はどれぐらいがいいか、やはりこれからは、最初に設計した人がそういう維持管理計画も含めて考えるべきかなと思います。</p> <p>このような会議に道路局の人が来ていることがとても大事です。以前はそうではない時期もありました。大概の市では、街路樹担当の道路課はなかなか出てきません。横浜市の体制はとても素晴らしいです。</p> <p>それでは、時間になりましたので、本日の議論は終了させていただきます。事務局にお返しします。</p> <p>(事務局) 本日は活発なご議論をどうもありがとうございました。本日いただいたご意見をもとに事務局で修文します。修文案については、部会長にご確認いただく形でよろしいでしょうか。</p> <p>(池邊部会長) いいですか、皆さん、はい。</p> <p>(事務局) 本日はありがとうございました。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2022年度報告書(案)【抜粋】</p>